第三回 ITトレンド研究会 議事録

日時: 20112/03/8(木)15:00~18:00

会場: クオリティソフト(株) 6F 本社 会議室

テーマ: 私物解禁! BYOD(私物機器の業務利用)の活用事例ご紹介
~BYODは止められない、情報システム部門にはどんな変化が求められているのか~

講演者: シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社
マーケティング本部 プロダクトマーケティング シニアマネージャー
竹内 裕治 氏

司会・進行: ITトレンド研究会 座長
HOYA 株式会社 オプティクス事業部 管理本部
情報システム管理課 ITグループ グループリーダー
柿崎 敦司 氏

当研究会の運営方針により、個人/会社名を特定できる発言、および発表者から公開の許可を得られなかった内容は 議事録より削除されています。あらかじめご了承ください。

◆第1部

竹内氏ご講演

◆第2部

●参加企業の状況

・私物を使ってセキュリティを担保しながらどのように使用するかが課題です。個人的にも複数台持たずに1台で行いたいです。PC2000台程所持しており、昨年 Citrix のモバイル環境を営業用に提案しましたが、価格の面で却下されました。また検討したいです。

・以前 Citrix の導入を検討しましたが、コスト面で諦めました。承認が下りる提案方法があれば知りたいと思い、参加しました。尚、モバイル端末 800 台、iPhone400 台を管理しています。

・シンクライアントは検討しましたが、金額面で承認が下りなかったです。セキュリティ上、理想的なのはシンクライアントだと思えます。

・他社様との意見交換、情報収集のため参加しました。取引先の方が Citrix のシンクライアントを入れており、セキュリティはしっかりしているという印象を持っています。

・今後のための情報収集として参加しました。PCは、1000台程管理しています。

・ネットワークセキュリティ製品のマーケティングを行っています。

・スマートデバイスの導入を検討中です。管理台数は、スマートフォンだけで数千台単位、PC 入れると数万台になります。

・スマートフォンを試験的に2、3台程導入していますが、今後どのようにすべきか迷っています。約PC2500台を管理しています。

・スマートフォンは未導入ですが、現在導入を検討しております。管理台数は直接管理しているものは1千台程、間接的には1万台程です。

・試験的にスマートフォン3台、iPad2台を導入しています。

・スマートフォンを導入する場合は、営業先行で300台程度になりそうです。PCは約900台管理しています。

・基本、スマートフォンの業務利用は禁止されていますが、限定端末のみMDMを使って利用可能となりました。PCは350台程管理しています。

・現在iPhoneは一部の役員が利用しています。

・スマートフォンは導入していますが、セキュリティは後手に回っている。管理台数はPC80台程です。

・スマートフォンは特別な理由がないと認めていません。現在25台ほど導入しています。PCは200台程導入しています。

・スマートフォンは30台程あり、営業のみ導入しています。BYODが流行というだけで、進みそうな気配です。BYODをやるためのベースが知りたい。

・現在スマートフォンは野放し状態になってしまっています。導入指針を作成するため、研究会へ参加しました。PCは80台程管理しています。

・スマートフォンに対してBYODを検討しています。PCに関しては考えていません。PC1500台を管理していますが、海外もあるが数を把握していない状況です。

<質問>

■価格

Q: Citrix製品は高いという印象がありますが、価格にはスケールメリットはありますか？台数が少ないと割高になるのか？

→コストは出て行くほうに目がいってしましますが、目に見えない「機会損失のコスト」「管理コスト」をお金に換算すると、それほど大きなコストと思わない、というお客様もいらっしゃいます。また、初期投資に耐えられないお客様は、従来は違う選択肢をとられるのですが、小規模向けのVDI(仮想PC)製品を間もなく提供できる予定です。目安としては数十台から数百台のシステム規模を想定しています。

詳細 URL: http://www.citrix.co.jp/company/press/releases/20111130_2.html

■教育

Q: BYOを実現するための教育と運用ルールはどうされていますか？

→当社が作成し、全世界同じルールで運用しています。日本法人内の教育はありませんが、BYOプログラムに参加する際に、誓約書にサインする必要があります。

※BYOプログラム: シトリックスの社員向けのプログラム。会社からの一定条件(誓約書へのサインや必要最低限のセキュリティ対策など)を満たすことで、会社で利用する個人端末に対して、会社から支援金が支給される制

度。

Q: BYOD は管理を人任せにすると思うが、どう考えられていますか？

→BYOD にしたい理由は、個人によって異なると思いますが、ネットワークが必ず繋がれば、ローカルにデータを置こうとは思わないでしょう。また、重要な部分(デスクトップ OS、アプリケーション、設定、データ)は情報システム部門が集中管理します。HW の重要度は低く見えています。

→セキュリティの穴はいろいろありますので、優先順位を決めて対策を取っていくことになります。

■セキュリティ面

Q: 認証はどのようにされていますか？

→Windows ログイン時、パスワード、RSA のトークン利用、マカフィー(Anti-Virus)は必須です。ちなみに、BYO プログラムに参加している場合、個人の PC なので紛失しても特に責任は問われません。

Q: PC に会社の情報は入っていないのですか？紛失した場合、社員の責任は問わない、というのはセキュリティが担保されているのでしょうか？

→仮想 PC をリモート操作しています。会社のデータは持ち出さず、ローカルにも保存できない運用が可能です。

Q: ローカル環境で業務を行うことはありますか？

→あります。インターネットが繋がらない環境で社内資料を使う場合は、ローカルにデータを保存することがあります。

Q: PC がウイルスに犯されていても、会社のデータは大丈夫でしょうか？また、個人の PC を社内のネットワークに繋ぐ場合のセキュリティはどのようにされているのですか？

→マカフィーを必須で入れているので、これが担保となります。また、エンドポイントをスキャンして検疫の仕組みを適用できるものもあります。

Q: Windows のパッチのアップデートはどうしていますか？

→ローカル OS については基本的に個人の責任で行ない、必要な場合は会社がチェックできるというルールになっています。仮想デスクトップ環境については、自動アップデート、強制アップデートを情報システム部門が適用しています。

(→外国だと、違反すると個人が訴えられるという社会なのでそれが通じるが日本だと難しいだろうというご意見があり。)

■ネットワーク

Q: ネットワーク障害のときの対処法はどのようにされていますか？また、ダウンロード要求があった際の提供方法は？

→データセンターは世界に 3 ヶ所あります。データはデータセンター間で一部同期されています。障害、トラブル時は情報システムに連絡して対応してもらいます。問い合わせは世界中 24 時間 OK です(英語対応)

Q: シンククライアントで不自由なくできていますか？

→できています。ただ利用するアプリケーションによっては、ベンダー側の許可の問題はあります。

■その他

Q:勤務時間はどうなっていますか？

→勤務時間は業務によって異なります。定型業務を行う人は時間が決められていますが、職種によっては決められた時間はなく、トータルの勤務時間を報告しています。始業と終業の間に欠務時間があれば、それも報告します。超過勤務分は(該当する社員に対して)支払われます。

→実際の運用と労務管理については各企業さん悩まれているところのようです。

Q:スマートフォンの業務利用について、他の会社ではどういう活用をされていますか？

→スマートフォンを使う理由としては、ほとんどがメールやスケジュールを確認したい程度です。

→社内ネットワークには接続できませんが、アプリを使って Notes を見ることができます。

→メール、カレンダー、アドレス帳を見る事ができるように構築しました。

Q:MDM の導入について

⇒第3部の懇親会にて議論

■最後に

・BYOD を実施するには、まずルール化が必要です。ルール化する項目はいくつもありますが、今後 BYOD の流れは進むと思われるので、各企業でのルール化は必須となってきます。

(参考)

Citrix BYO の専用サイト

<http://www.citrix.co.jp/byo/index.html>

※議事録収録にあたり、発言内容を一部訂正、または削除している箇所があります。現時点で正確な情報とすること、意図と異なる憶測を呼ぶ可能性を排除したいためです。ご了承下さい。